

災害の時、動物を守るために

災害時にペットを守ることができるのは飼い主だけです。

家族とペットが災害を乗り越えるためには、日頃からの心構えと備えが必要です。



災害に備えてチェック してみましょう！

- 住まいの防災対策を行っていますか？
- 災害時にどのように避難するか家族で話し合っていますか？
- ペットに必要なしつけや健康管理を行っていますか？
- ペットが迷子になっても飼い主が分かるように、迷子札やマイクロチップなどをつけていますか？
- ペットに必要な餌や水など、避難する際に持ち出すものを準備していますか？



日頃からの災害への備え

住まいの防災対策

ペットを守るためには、まず飼い主が無事であることです。家の耐震化や家具の転倒防止などの対策を取っておきましょう。ペットの飼育場所についても安全かどうか確認しておきましょう。

家族での話し合い

災害が起こったときに、どの道を通ってどこに避難するか、ペットをどのように連れていくか、日頃から家族で話し合っておきましょう。

ご近所や飼い主仲間との連携も大切です。緊急時にペットを預かってくれる人や場所を普段から探しておくとお心です。



爬虫類などの野生由来の動物や飼育に許可が必要な動物は、多くの人が飼っている犬、猫、ウサギなどの小動物とは異なり、避難所での受け入れが難しいので、必ず緊急時の受け入れ先を探しておいてください。

ペットのしつけ

日頃から「むやみに吠えない」「人や他の動物を怖がらない」「ケージに入ることを嫌がらない」など、基本的なしつけをしておきましょう。周りの人に迷惑をかけないためだけでなく、ペットのストレスを少なくすることにつながります。

ペットの健康管理

災害時はペットも体調を崩しやすくなります。各種伝染病ワクチンと狂犬病ワクチンを接種し、ノミ、ダニ、フィラリアなどの寄生虫の予防・駆除を行うなど、日頃からの健康管理を忘れずに！



迷子札やマイクロチップをつける

災害時にはペットと離ればなれになるかもしれません。すぐに飼い主がわかるように首輪に迷子札をつけておきましょう。犬には鑑札と狂犬病予防注射済票をつけておいてください。また、首輪が外れても確実な身元証明になるマイクロチップを入れて二重の対策をとりましょう。

迷子札のつけ方の例



二重リングでつける、直接首輪に縫いつけるなど

犬の鑑札と狂犬病予防注射済票



マイクロチップに記録された番号を専用のリーダー（読取機）で読み取ることで飼い主がわかります。



災害時にはマイクロチップが有効です

動物の体内（頸部の皮膚の下など）に専用注射器で埋め込むため、首輪が外れても、確実な身元証明になります。

※マイクロチップの埋め込みなど詳しくは、お近くの動物病院でご相談ください。

2 ペットのための防災用品

避難所では、ペットに必要な生活用品は、基本的に飼い主の責任でそろえることになります。災害時にすぐ持ち出せるように準備をしておきましょう。

1 餌と水

救援物資が届くまでには時間がかかりますので、少なくとも5日分は用意してください。被害が大きい場合に備えて2週間分を用意しておくとも安心です。

ストレスで食欲がなくなることもありますので、好物や使い慣れた食器なども用意しておくといでしょう。



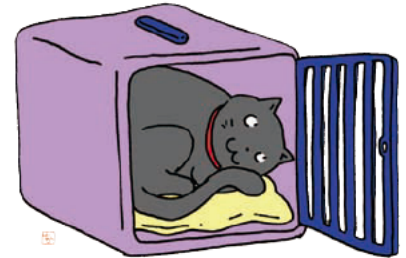
2 薬や療法食

災害時には薬や療法食が手に入りにくくなるので、治療中のペットには薬や療法食の予備を準備しておいてください。

3 キャリーバック又はケージ、首輪、リード※など

災害時には、小型犬や猫などの小動物はキャリーバック又はケージに入れ、中型犬や大型犬はリードなどですつないで避難し、管理することになります。

※リード：散歩の時などに動物をつなぐための引き紐



4 ペットと飼い主の情報を記録したもの・写真

ペットのワクチン歴や病歴、飼い主の連絡先などを記入した健康手帳があればベストです。

飼い主と一緒に写っている写真を何枚か用意しておくことでペットの捜索や飼い主の確認に使用できます。携帯電話に写真を保存しておくのもよいでしょう。

5 ペット用品

ペットシート、トイレ用品、タオル、ブラシなど、それぞれの動物に必要なペット用品を用意しておきましょう。

ペットの防災用品 準備チェック表

用意するもの	チェック
1 餌と水 ※最低でも5日分は必要	<input checked="" type="checkbox"/>
2 薬や治療食(治療中の場合)	<input type="checkbox"/>
3 キャリーバック又はケージ、首輪、リードなど	<input type="checkbox"/>
4 ペットと飼い主の情報を記録したもの・写真	<input type="checkbox"/>
5 ペット用品(ペットシート、トイレ用品など)	<input type="checkbox"/>

飼い主のための防災用品も忘れず準備してね!



3 災害が発生したら

■ まずは飼い主の安全から

ペットを守ることができるのは、飼い主であるあなた自身です。あわてずに、まず自分を含めた家族の安全を確保してから、落ち着いて避難の準備をしてください。

■ ペットと一緒に避難する

被害が大きいと自宅に戻れなくなる場合があります。ペットは自力で生活できませんので、状況にもよりますが、事情の許す限り同行避難してください。

小型犬や猫などはキャリーバック又はケージに入れ、移動中は絶対に蓋を開けないようにしてください。中型犬や大型犬はリードでつないで避難しますが、移動中に首輪が抜けないように少しきつめにしておきましょう。

4 避難先での注意点

■ 周りの人への配慮

避難所には、動物アレルギーを持つ人、動物が苦手な人、幼い子供、心身を休めたい人など、様々な人が集まりますので、普段よりも周りの人への配慮が必要です。

■ 「飼い主会」をつくる

避難所ごとに「飼い主会」をつくり、飼い主同士が協力して助け合いましょう。

■ ペットの管理

飼い主会の代表者は、避難所運営者と相談し、鳴き声や匂いなどが他の避難者の迷惑にならない場所にペットの一時飼育場所を決めてください。飼い主は「避難所での飼育ルール」に従って、決められた場所でペットを管理してください。

避難所での飼育ルール

避難所では多くの人共同生活を送ります。ペットの飼い主は次のことを守ってください。

1. 飼い主氏名・連絡先・ペット名をペットに装着(飼育場所にも表示)して、確実につなぐか、ケージ(おり)の中で飼ってください。
2. 飼育場所周辺は飼い主の手によって常に清潔にしてください。
3. 苦情や、危害の防止に努めてください。
4. 排泄は指定された場所でさせ、後始末を必ずしてください。
5. ノミやダニの駆除に努めてください。
6. 運動やブラッシングは必ず屋外で行ってください。
7. 世話が困難な場合や困り事は、飼い主会の代表に相談してください。
8. トラブルが生じた場合はすみやかに、飼い主会の代表とともに避難所運営者まで届け出てください。

